

W-797 取扱説明書

W797-z-2306

ご購入ありがとうございます。
ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱い
下さいますようお願い申し上げます。
本取扱説明書はお手元に保管して下さい。

- 印刷による制限のため、本取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。
- 本製品によって生じた、いかなる支出・損益・その他の損失に対して何ら責任を負いません。
- 本取扱説明書を製造者の許可なく変更・複製することを禁じます。

製品仕様 (改良のため予告なく変更する場合があります。)

- 時間精度: 平均月差 ±30 秒以内 (気温 25℃で使用した場合)
※電波時計による時刻修正を行わない場合
※指針 (針の位置) 誤差
アナログ時計の特性上、指針誤差が生じる場合がありますが、故障ではありませんのでそのままお使い下さい。
秒針: ±1 秒以内、時・分針: ±3 度以内
- 使用温度範囲: 0 ~ +40℃ ※結露なきこと
(外観 / 機能に支障無く、連続使用可能な温度範囲)
- 使用推奨電池: 時計用: 単3形アルカリ乾電池 (LR6 1.5V) 1個
振子用: 単3形マンガン乾電池 (R6 1.5V) 2個
- 電池寿命: 時計用: 約 12 ヶ月
(単3形アルカリ乾電池 1個使用の場合)
振子用: 約 8 ヶ月
(単3形マンガン乾電池 2個使用の場合)
- 電波受信: 40kHz/60kHz のどちらか受信しやすい電波を受信し、
現在時刻に合わせる
●自動受信 (最多 6回 / 1日) ●手動受信
- 夜間秒針停止機能: 午後 10時 0分 ~ 午前 6時 0分の間は、秒針のみ 12時位置で停止
- 振子

電波時計について

電波時計とは
標準電波を受信して自動で時刻を修正する機能を持つ時計です。
※電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。

標準電波とは
情報通信研究機構 (NICT) が運用している時刻情報をのせた電波です。標準電波送信所
は、福島県の「福島局・おおたかどや山標準電波送信所」と、佐賀県と福岡県の県境にあ
る「九州局: はがね山標準電波送信所」の国内 2か所にあります。
※標準電波の時刻情報は、およそ 10万年に 1秒の誤差という精度の「セシウム原子時計」
によるものです。

標準電波の送信停止について
標準電波は毎時 15分と 45分から各 1分間は一部の時刻情報の送信が中断されます。
また、送信所の定期点検や落雷などの影響により停波 (送信停止) することがあります。
標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

日本国外でのご使用について
本製品は、日本の標準電波以外は受信できません。海外で使用した場合、ご使用になる
場所の条件により日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った日時を表示する場
合があります。あらかじめご了承下さい。

電波の受信範囲について
送信所からおおむね半径 1000kmとされています。
※電波を受信できない場合は、
内蔵クォーツの精度で計時します。



電波を受信しにくい環境

- 次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。
- 工事現場、空港の近く、交通量の多い場所など電波障害の起きやすいところ
 - ビルの中、ビルの谷間、山など電波を遮るものの近く
 - 鉄筋、鉄骨の建物の中や地下
 - 金属製の雨戸やブラインドの近く
 - 高圧送電線、ラジオやテレビの送信所の近く
 - 自動車、電車、飛行機などの中
 - 家電製品やOA機器、蛍光灯などの照明器具の近く
 - スチール机などの金属製家具の上や近く
 - 朝・夕の時間帯や雨天のとき
- ※電波障害などにより誤った電波を受信し、時刻を誤表示する場合は、リセット操作を
行い使用する場所を変更してご使用下さい。

標準電波についての詳しい情報は「情報通信研究機構」のホームページ内の「日本標準
時計グループ」を参照して下さい。

情報通信研究機構 ホームページアドレス <https://jyy.nict.go.jp>

故障かな?と思ったときには…

※製品が正常に作動していないときは修理を依頼する前に下記を参考に
お確かめ下さい。

針がぐるぐる回る

考えられる原因	処置
電池容量が少ない	時計用電池を新しい電池に交換して下さい。
電池を入れた直後の電波の受信の準備中	そのままお待ち下さい。 早回りしている針は正午(12時位置)で一旦停止します。 電波を受信すると、自動的に針を現在時刻に合わせます。 ※その間ボタン操作はしないで下さい。
時刻修正中	電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。 電波受信に失敗した場合、通常の運針を始めますが、現在時刻ではありません。 本書「電波受信ができなかった場合は」を参照して下さい。

秒針が止まって動かない

考えられる原因	処置
夜間秒針停止中	そのままお待ち下さい。 ※内蔵プログラムにより、午後 10時 0分から午前 6時 0分までの間、秒針が 12時位置で停止します。
午前/午後を間違えて設定している (手動設定時)	※午前/午後を間違えて設定すると、日中に夜間秒針停止機能が作動してしまいます。 ※本製品は、秒針位置の誤差を自動で修正します。
針がぐるぐる回った直後の電波受信	
秒針位置の自動補正中	

時計が動かない

考えられる原因	処置
電池容量が無い	時計用電池の、⊕ ⊖の向きを確かめて、新しい電池を入れて下さい。
電池が入っていない	
電池が正しい向きで入っていない	
電池端子の接触不良	端子の表面をふいて電池を入れ直して下さい。

時計が止まる、または遅れる

考えられる原因	処置
電池容量が少ない	時計用電池を新しい電池に交換して下さい。
電波障害	リセット操作をして下さい。 (本書「リセット操作について」参照)

時分針が早回りした後、動かない

考えられる原因	処置
電波の受信	そのまま 12分程お待ち下さい。その間ボタン操作はしないで下さい。
電池容量が無いまたは容量が少ない	時計用電池を新しい電池に交換して下さい。

振子が動かない

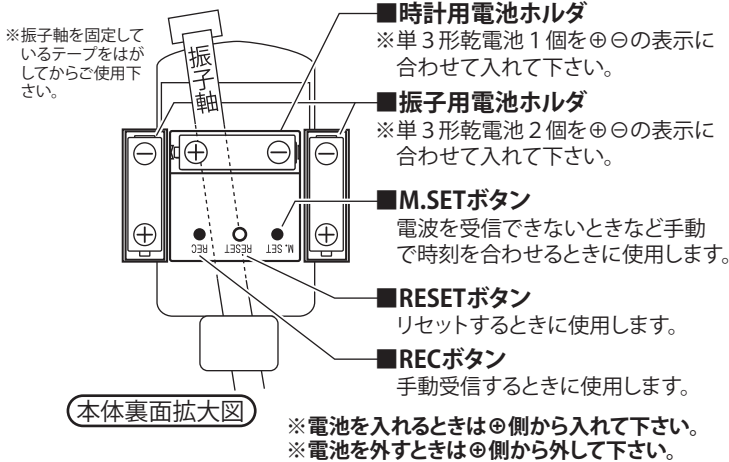
考えられる原因	処置
時計が水平に掛けられていない	時計を垂直・水平に掛け直して下さい。
電池容量が無いまたは容量が少ない	振子用電池の、⊕ ⊖の向きを確かめて、同じ種類の新しい電池に 2個同時に交換して下さい。
電池が入っていない	
電池が正しい向きで入っていない	
電池端子の接触不良	端子の表面をふいて電池を入れ直して下さい。

電池の交換について

- 時計用電池容量が少なくなると、秒針の進みが目に見えて遅くなります。自動電波受信のときは針がぐるぐる回ります。このような場合は、速やかに新しい電池に交換して下さい。
 - 振子用電池容量が少なくなると、振子の動きが鈍くなり、やがて止まります。このような場合は、振子を曲げない様に取り扱いに注意しながら、速やかに同じ種類の新しい電池に 2個同時に交換して下さい。
- ※買い置き電池を使用した場合、乾電池に示されている「使用推奨期限」や保管状態により、電池寿命が短くなることがあります。

各部の名称

※構造上の理由により、駆動部が逆向きに付いていますが、時計の運針には問題ありません。



注意 種類の違う電池、古い電池と新しい電池などを混ぜて使用しないで下さい。電池の破裂や故障の原因になります。

ご使用方法

注意 時計の針には触れないで下さい。正確な時刻を示すことが出来なくなります。振子を曲げない様に、取り扱いに注意して下さい。

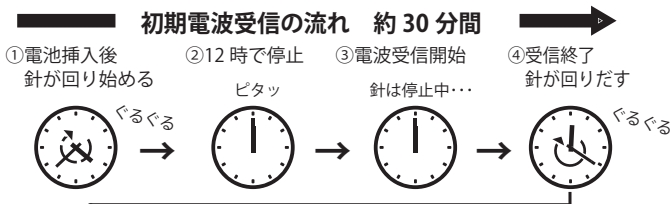
1.電池を入れる

時計用電池ホルダに単3形乾電池1個を、振子用電池ホルダに単3形乾電池2個を⊕の表示に合わせて入れて下さい。

2.電波を受信させて時刻を合わせる

■初期電波受信(電池をセットして最初の電波受信)の流れ

- ①電池を入れると秒針/分針/時針が高速で回り始めます。
 - ②3針が12時で停止します。
 - ③電波受信を始めます。
 - ④電波受信が終了したら、再び針が回りだします。
- 電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。
 - 電波受信に失敗した場合、時刻を修正せず、針が12時から動きだします。



電波受信結果

- 受信成功：時刻が現在時刻に合う。
- 受信失敗：時刻を修正せず、12時から動きだす。

■電波受信に失敗した場合→再受信させて下さい。

⇒電波を受信できなかった場合を参照して下さい。

3.時計を掛ける

本書の「時計の掛け方について」と「電波時計について」を参照して下さい。

電波を受信できなかった場合

1. 朝までそのまましておく

一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくと、受信できる可能性が高くなります。

2. 設置場所を変えて受信をやり直す

電波を受信しやすい場所に時計を移動し、再度手動で電波を受信させて下さい。

本書の「電波時計について」の「電波を受信しにくい環境」と「手動受信について」を参照して下さい。

3. 手動で時刻を設定する

電波受信は行わずに、M.SETボタン操作で時刻を合わせます。電波を受信できない間は、内蔵クォーツの精度で計時します。

本書の「手動で時刻を設定する」を参照して下さい。

手動受信について(ボタンを押して電波を受信させる) W797-z-2306

※「電波を受信しにくい環境」を参考にしてご使用下さい。

1. 通常運針時(電波受信中外)に、RECボタンを秒針が早回りを始めるまで押し続ける

→針が正午(12時位置)で一旦停止し、電波受信状態となります。

注意 電波受信(4~12分間)は針が停止したままになりますが、故障ではありません。電波受信の結果がわかるまで、そのままお待ち下さい。

手動で時刻を設定する

注意 電波受信中は、手動による時刻設定はできません。※電波受信中は、受信のための時分秒針の運針中または停止中のことです。

1. 通常運針時(電波受信中外)に、M.SETボタンを秒針が早回りを始めるまで押し続ける

→秒針が12時位置で停止し、手動で時刻が設定できる状態になります。

2. 秒針が停止中に、M.SETボタンを押して時刻を合わせる

※30秒以上何も操作をしないと通常運針を始めます。

※1回押すごとに分針が1分ずつ進みます。ボタンを押し続けると早回りをし、放すと停止します。

※お使い始めの電波受信時の針は、正午(12時位置)で停止します。合わせた時刻が午前の場合は12時間以上移動させて現在時刻に合わせて下さい。

3. 時刻合わせが終了したら、RECボタンを押す

→針が動きだして設定が完了します。

※手動で時刻を設定した場合、自動受信時間になると、電波を受信する状態になります。電波受信に成功した場合、自動的に針を現在時刻に合わせます。

自動電波受信機能について

本製品は、時刻を修正するために、毎日、内蔵プログラムにより自動電波受信を行います。電波を受信できない場合、内蔵クォーツの精度で計時し、次の自動受信時間に再び電波受信を行います。

夜間秒針停止機能について

本製品は内蔵プログラムにより、午後10時0分から午前6時0分までの間は、秒針のみ12時位置で停止します。

※夜間秒針停止中であっても自動受信のときは、秒針が動くことがあります。また時・分針も通常運針以外の動きをする場合がありますが故障ではありません。

※夜間秒針停止機能の解除、時刻設定はできません。

リセット操作について

操作中に不明な点が出てきた場合、RESETボタンを押して下さい。設定されている内容がお使い始めの状態に戻ります。針が早回りして正午(12時位置)で停止し、再度4~12分間電波受信状態になります。

※RESETボタンは、先の細い尖っていない棒などで押して下さい。針などの鋭利なものを使用するとボタンが破損しますのでご注意ください。

静電気の影響

静電気の影響により、正常に動かなくなることがあります。このような場合、リセット操作をして下さい。「リセット操作について」を参照して下さい。

時計の掛け方について



注意

掛け方が不適切な場合、落下する危険があります。

- 掛け具に時計を掛けた際に、時計本体を上下・左右・前後に軽く動かして、確実に掛かっていることを確認して下さい。
 - 時計は垂直・水平に掛けて下さい。時計に傾きがあると振子が正常に動きません。また時計の精度や機能が正常に働きません。
 - ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に掛けて下さい。
 - 落下の原因になりますので、壁掛け部以外には掛けしないで下さい。
 - 壁の裏側に電気配線等がある場所に取り付けると掛け具で電気配線等を傷つけ、火災・感電につながる恐れがあります。事前に電気配線等の位置を確認し、取り付けて下さい。
 - 壁の材質・構造を確認の上、この時計の重さに充分耐えられる掛け具を選んで下さい。
- ※材質・構造がご不明の場合は、建築メーカー等へ相談して下さい。

